

大同工大キャンパス

No.63

2007.12

# DAIDO CAMPUS

DIT流学生イベント／学生の勇姿／Another Real Face③④／OPEN DIT (開かれた大学)  
トコトン先生大活躍／元気印の卒業生③／研究室ニュース／新任教員紹介／やるじゃんトピックス  
DITスケジュール／新刊書出版



写真提供：アルバム委員会



次をつくる人をつくる

大同工業大学

# DIT流 学生イベント!

## 体育大会

学生会執行委員会主催の学生イベント「体育大会」を10月8日（体育の日）・9日（火）に開催した。職員・学生合わせて、およそ600人が参加。ジャージ姿の爽やかな笑顔にキャンパスが包まれた。



### 成績結果

8日	サッカー	雨天中止
	バスケットボール	1位: B'Z 2位: ハロルド・パワーズ 3位: ポンパー
	スポーツチャンバラ	1位: 石黒千善 (B06) 2位: 青山 豊 (A06) 3位: 大村慶亮 (04B)
9日	ソフトボール	1位: ブルマいこみパラダイス 2位: スパイダーズ 3位: くそだぬき
	フットサル	1位: DOすればEじゃない 2位: FC. EIJI 3位: SurpriseA
	卓球Aリーグ	1位: 脚 武史 (05B) 2位: 樋田和也 (B06) 3位: 安藤圭祐 (M07)
	卓球Bリーグ	1位: 宮崎洋平 (05B) 2位: 平山和也 (05B) 3位: 岡村健司 (B07)

## 第44回 錦杯学内しがтта大会

クラブ委員会主催の学生イベント「レガッタ大会」を11月4日（日）に開催した。クラブの部 24チーム、一般の部 11チームがエントリー。応援団を合わせると200人を超える参加者が庄内川ボートコースに集まった。秋晴れの空の下、スポーツの秋を満喫、青春を謳歌した。



### 成績結果

一般の部	1位: 山田錦 (吹奏楽団 & E.P.D.S.部OBチーム) 2位: 緑のタオルさんチーム (ALL学生会チーム) 3位: チームD (掘研究室OBチーム) 4位: 大同インテリジェンス (職員チーム)
クラブの部	1位: やらないか (E. P. D. S. 部) 2位: DMピンクエンジェルス (モーターサイクルスポーツ部) 3位: 吹奏楽団員の夜のおかず (吹奏楽団) 4位: アンチエンジェルス (自動車部)



2006年11月、上田友佑君（当時工学部機械工学科3年）をプロジェクトリーダーに第4期DFPが動き始め、2007年4月、本格始動。メンバーは16人。第4期DFPのキーワードは「D-LIGHT」。大同の「D」と軽さを意味する「LIGHT」、喜びを意味する「DELIGHT」の造語だ。とにかく今回はチーム内で議論を重ねた。前年度の車両（DF06）をマイナーチェンジして、無難に車検を通過させるのか。それとも、フルモデルチェンジし、自分たちのスタイルで作り上げるのか。メンバーが出した答えはフルモデルチェンジだ。エンジン・マフラー・ディファレンシャル（駆動系）ギヤ等、さまざまな改良を試みた。またカウル（外装）は横山弥生研究室（情報学部情報学科コンピュータサイエンス専攻）とコラボレイト。前年度までのチームカラー青／白を赤／黒に、更に塗装には漆が使用され、光り輝く「DF07」が完成した。実は車両をフルモデルチェンジしたこともあって、会場入りする当日に完成。ほとんど練習走行もできないまま、不安な状態で本番を迎えることとなった。

9月12日(水)～15日(土)、静岡県袋井市にある「ECOPA・小笠山総合運動公園」で第5回全日本学生フォーミュラ大会が開催された。

### 初日「車検」

予想外のフレームレギュレーション（企画）違反を指摘され、フレームを交換するため切断、そして溶接を余儀なくされた。



車検へ向かう

### 2日目「車検」

フレームは通過したが、今度はブレーキテストが通過できない。およそ10回の車検で何とか合格。その時車検のスケジュール時間は30分以上過ぎていて、辺りは薄暗くなっていた。DFPの熱意を酌んでくれたのか、主催者側の温情措置に感謝したい。

## 第4期 大同フォーミュラプロジェクト(DFP)

# 第5回 全日本学生フォーミュラ大会



車検通過を喜ぶプロジェクトリーダーの上田君

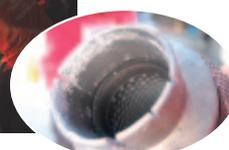
すべての車検が通過したことを示すステッカーを貼る鈴木准教授

### 3日目「プラクティス」

ほぼ初めてであろう、練習走行。スタート早々、DF07から煙が…。マフラー等多くの部品に不具合が生じた。大会前にテストしていれば避けられた不具合だ。ここであきらめる訳には行かない。最終日、大会のクライマックス「エンデュランス」に何としても出場したいという気持ちで、部品を大学まで取りに帰り、静岡にある大学で鈴木桂輔准教授（工学部機械工学科機械工学専攻）と6人のメンバーが徹夜で修理。最終日の会場へ向かう15分前に完成させてみせた。



徹夜の修理



マフラーに亀裂が

### 最終日「三度車検」

通過できなければ、「エンデュランス」に参加できない状況で望んだ車検、見事通過。もはやエンデュランスで走れることが奇跡と思えるほどの道のりだっただけにメンバーは喜んだ。



エンデュランススタート前のドライバーのふたり

エンデュランススタート前

### 最終競技「エンデュランス」

「ポイントにならなくても完走できれば」と挑んだエンデュランスがスタートした。DF07がコースを走っていることに喜びを感じていた4週目。ミスコースした前走車両を避けるためにDITドライバーが急ブレーキしたところエンジンが停止、再び動き出すことはできなかった。



エンデュランス走行

コース委員長からの発表は「DITに非は無い」、また前走車両の大学から謝罪もあったが、「すべては自分たちが招いたこと。これも経験として吸収するしかない」とプロジェクトリーダーの上田君は言う。

第4期DFPは静的審査のひとつであるコスト審査で8/61位と上位にくい込んだものの、動的審査を含む総合順位は38/61位という結果に終わった。しかし挑戦し続けた彼らのスタイルに後悔はない。間違いなく「次をつくる成果」を残したはずだ。





自動車部

エンジョイスタイルで活性化!

全日本ジムカーナ選手権で優勝し、日本一の栄光に輝いた実績もある伝統のDIT自動車部が、変化を求めて「第5回全日本学生DRIFT王座決定戦」に初挑戦したのは昨年のこと。この挑戦が部の活性化に繋がったとその大会からの1年間を振り返る。「正直言って近年、自動車部に以前の活気がありませんでした。レースで好成績を残したいという強い気持ちで部活に参加していた部員はほんの一部。全体としてはあまりまとまっていなかった…」と彼らは言う。しかしこのままではいけない、この状況を打破しなければとの思いから、ドリフト競技を部として取り入れた。するとまず練習量に変化が。部員同士が誘い合いまとまって、練習に参加するようになった。こうして高まっていった仲間意識は成果としても表れ、平成19年5月に開催された「全中部学生ジムカーナ選手権大会」において、ぶっちぎりの団体優勝。3年ぶりに好成績を

残した。

初出場した第5回大会がきっかけとなって部が活性化され、新たな気持ちで臨んだ第6回大会、目標は入賞だった。結果は予選通過したものの、目標を達成することはできなかった。しかし東日本大会(8/10開催・栃木県日光サーキット・99人参加)に13人、西日本大会(8/17開催・岡山県備北ハイランドサーキット・81人参加)に3人がエントリーしたDIT。これは全出場校で最多のエントリー人数。「ドリフトの名門校と言える実績だ」と大会関係者から評価を得た。また応援を含めるとのべ29人の部員が参加し、現場ではどの大学よりも明るくエンジョイしている、ピンクのTシャツ軍団 DIT自動車部が目立っていた。

そのチームスタイルが、雑誌「ドリフト天国」に大きく紹介された。



広報研究会

南区・大磯通商店街のイベントに参加・加勢!

川岸祐哉君(情報学部情報学科メディアデザイン専攻3年)が部長を務める広報研究会の6人が、9月16日(日)、大磯通商店街の秋イベント「いりゃーせ大磯」に、「カードマジック」と「パソコンでお絵かき」の二つの「子ども向けアトラクション」で参加した。

アメリカ短期留学でオレゴン大学のスタッフを感心させた加藤瞬君(同)の鮮やかなカードマジックに、子どもたちからは「どうして〜?」の大合唱。一方「パソコンでお絵かき」では、片田悠介君(同)と延原得靖君(同)たちの鮮やかな手つきで完成したキャラクターがプリントアウトされると、子どもたちが列を作った。

同商店街の稲熊金敏理事長は、「大同工大の皆さんのおかげで、子ども向けのアトラクションが人気を呼び、天気が悪かった割には、人出が多くて感謝しています」というお礼の言葉をいただいた。

広報研究会は、今後とも地域の各種団体と積極的にコラボレーションしていくことにしている。



DITハンドボール部&DIT吹奏楽団&大同高校男女ハンドボール部  
ハンドボール日本代表の応援に大活躍!



手からも「気持ちが盛り上がり、燃える!」と喜ばれた。それからは他大学も負けじと応援団やチアガールを引き連れて来るようになり、石井記念体育館で行われる試合は毎回他会場にはない盛り上がりを見せていた。その東海学生リーグの会場を見た大同特殊鋼フェニックス(2006年度3冠に輝いた日本一の社会人ハンドボールチーム)からDITに応援要請があり勿論協力参加。次はその日本社会人リーグの会場を見た日本ハンドボール協会から神戸で開催されたアテネオリンピック男子アジア予選(平成15年)において「日本代表の応援団」として正式にオファーがあったという訳だ。

9月1日(土)~6日(日)、スカイホール豊田で開催された「ハンドボール北京オリンピック男子アジア予選」で2大会連続、DITハンドボール部&吹奏楽団が日本ハンドボール協会より日本代表チームの応援要請を受けた。

きっかけは6年前、DITハンドボール部が東海1部リーグに昇格を果たしたシーズンに遡る。ハンドボール部顧問の佐藤壮一郎講師(教養部 保健体育教室)の要請を受け、DIT石井記念体育館で行うホームゲームに吹奏楽団が登場、ドラムやトランペット等の楽器を用いてハンドボール部の控え選手と共に応援を始めた。今現在でもおハンドボールの応援に楽器を使用することは珍しく、当時としてはかなり画期的で注目を浴びると共に、選

会場はハンドボール部のマイクパフォーマンスと吹奏楽団の音にリードされ、ひとつとなり大応援団を結成。「応援団の力が日本代表を北京へ導くのだ!」という熱い気持ちで精一杯応援していた。



# Another Real Face

もうひとつの素顔

3 | 4

吉岡慎一郎君(工学部情報機械システム工学科4年)

## オレゴン大学語学研修

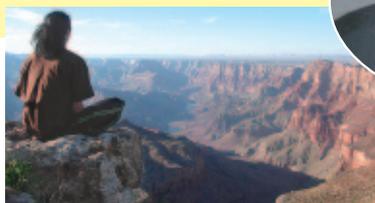
2007年の春から半年間、私は語学研修でアメリカのユージーンにあるオレゴン大学へ行って来ました。私が始めの3ヶ月間生活した寮は、日本人が私一人だったので現地の友達を作るにも英語を学ぶにも良い環境でした。1ターム目が終わる頃には不動産屋をまわってアパートを探し、2ターム目から日本人二人と3LDKのアパートでルームシェアをして生活しました。

AEIの必須授業であるオーラルの授業では、自分のことや配布される資料についてのプレゼンテーションや、ディベートをすることがありました。ディベートは自分たちで何について討論するかを決め、プロジェクトタームなどを使って説明したりしました。私はアメリカの州法について韓国人の学生とディベートを行いました。ディベートは私がAEIで受けたオーラルの授業の中で最も単語やアメリカの文化を学べた授業でした。

AEIには日本、韓国、中国、サウジアラビア、トルコ、ミャンマー、ブラジルなどいろいろ

な国から英語を学びに来ている人たちがいるため、様々な国籍の友達もでき、それぞれの国の文化を学ぶことができました。

私には1ターム目と2ターム目の間に10日以上以上の休みがあったので日本から遊びに来ている友達と二人でレンタカーを借りて、オレゴン州からカルフォルニア州、ネバダ州、ユタ州、アリゾナ州へとテントや寝袋、調理器具などを持って旅をしました。宿泊施設などは予約せずにキャンプ場やモーターを探して宿泊しました。ロサンゼルスやラスベガスなどの大きな町にも寄りましたが主に寄った場所はグランドキャニオンなどの国立公園で日本では見ることのできない自然の姿を見ることができました。旅中トラブルもいくつかあり、その場を打開するたびに英語を学ぶことができました。また、2ターム目には友達とシアトルへ行き、マリナーズのイチロー選手対レッドソックスの松坂投手の試合もみることができました。



私はオレゴン大学での授業終了後、自分の英語を使って一人で生活することと英語をよ

り上達させることを目標にオレゴンからカナダへ渡りました。カナダでは1ヶ月間バックパッカー用の格安モーターで生活をしました。ここでは多くの旅行者と話す機会があり、彼らの経験談などを聞いたりすることで自分の英語に何が足りないのかよく分かりました。それは、単語をもっと沢山覚え理解することです。カナダでは年齢の離れた人たちと話すことが多く、私の知らない単語を沢山耳にしたのです。

今回の語学研修では、オレゴン大学での授業やアメリカやカナダで出会った人たちから英語を沢山学び、沢山のひとと会話することによって様々な国の文化や物事に対する考えなど、英語以外のことも沢山学ぶことができました。また日本に帰国してからも連絡を取り合う友達も沢山作ることができ、私にとってこの半年間は本当に貴重な経験になったと思います。

岩佐彰君(工学部都市環境デザイン学科4年)

## トライアスロンに挑戦!

平成15年8月、鈴鹿サーキット(三重県)のレーシングコースを1周(5.8km)する自転車ロードレース「シマノ鈴鹿ロードレース」に出場した。自転車で全国を旅していた兄からレース用の自転車を譲り受けたことがきっかけだ。中学・高校と陸上部だったこともあり、脚力には自信があった。出場者はおよそ200人。スタート直後、接触トラブルからいきなり転倒、最下位からのスタートとなってしまったが、諦めることなく、がむしゃらにレースを続けた。スタンドの観客は彼に注目していた。最下位から怒涛のごぼう抜き、180人を抜き去って21位でゴールしたからだ。このレースで彼は自転車競技のスピード感に魅了された。

次に雑誌等で、複合競技ディアスロンを知った。第1ラン(ランニング)ーバイク(自転車ロードレース)ー第2ラン(ランニング)を順に行い、所要時間、順位を競うスポーツだ。彼はその大会に出場するため、バイクトレーニ

ング400km、ランニング60km、DIT体育館での筋肉トレーニングを毎週続けた。

平成16年6月、デュアスロン伊勢大会に出場した。バイクよりもさらにランは自信があった。そのふたつの複合競技、楽勝のはずだった…しかし結果は惨敗。アップダウンが続くバイクコース、体重が軽い彼は下り坂でどんどん後続者に追い抜かれた。本来体力を温存できるはずの下り坂でも彼はペダルを漕ぎ続けなければならなかった。やっとのことで第2ラン、その時にはもう足が動かなくなっていた。初めての経験だった。転倒を繰り返しながら、なんとか完走したが制限時間オーバーで失格。順位は記録されなかった。しかし、この失敗は彼をさらに熱くした。失敗は成功の基、経験から得たものは大きかった。ランとバイクは主として使う筋肉を分けなければならないことを実践から理解できた。複合競技の深さを肌で感じた彼は、苦手なスイム(水泳)を含

めたトライアスロンも挑戦したいと思うようになっていた。

それから1年間、乗鞍の自転車ロードレースや地元のマラソン大会等に出場しながら、バイクとランのフォームを改良。トライアスロン挑戦に備えた。

平成17年8月、木曽川で行われたトライアスロン大会に念願の出場を果たした。スイム(800m)ーバイク(60km)ーラン(15km)、制限時間は6時間。彼は沿道からの声援を全身に受けながらゴールを目指した。結果は見事、制限時間内で完走。最下位に近い順位ではあったが、出場者のうち4割がリタイアするなかでの結果だ。

トライアスロンから得たものは彼に聞くと、「達成感は勿論ですが、それよりも人のあたたかさ、また様々な年齢層の仲間ができました」と満足げに話してくれた。





## 平成19年度〈前期〉クラブ活動成績結果

### 空手道部

- 東海地区大学・工業高等専門学校空手道選手権大会 (6/10)  
団体組み手3位 (04E石田洋一、04B戸松幸大、A06齊藤大晃)

### 弓道部

- 武豊町秋季弓道大会 (10/16) 出場

### 硬式テニス部

- 東海大学対抗テニスリーグ戦 (7/7) 出場
- 東海学生春季テニストーナメント大会 (4/21~5/5) 出場
- 東海学生新人テニス選手権大会 (9/9~16) 出場
- 全日本大学対抗テニス王座決定試合 東海地区予選東海大学対抗テニスリーグ戦 (9/22) 出場

### 硬式野球部

- 春季リーグ戦 (4/7~6/3) 4部6位

### 自動車部

- 全中部学生ダートトライアル (5/12~13)  
団体3位 (04J依田哲也、04M上田友佑、A06樋口哲也)
- 全中部学生ジムカーナ選手権大会 (5/27)  
団体優勝
- 明宝ジムカーナ走行会 (8/14) 出場
- 全日本学生ジムカーナ選手権大会 (8/25~26) 出場

### スキー部

- 全国学生岩岳スキー大会アルペン競技の部 (3/16~24)  
スーパー大回転1位 大回転3位 (04B梶彰克)
- 全国学生岩岳スキー大会基礎スキーの部 (3/3~9) 個人総合17位 (04B梶彰克)  
新人戦総合16位 (R06田谷竜兵)
- 東海学生基礎スキー選手権大会 (2/25~3/3)  
個人総合1位 (04B梶彰克)、新人戦総合4位 (R06田谷竜兵)、新人戦総合11位 (E06甲村浩喜)、新人戦総合9位 (M06小林謙太)、新人戦総合10位 (B06稲葉大樹) (E06菊池和行)

### 漕艇部

- 中日本レガッタ (4/20~22) 出場

### バドミントン部

- 東海学生バドミントン選手権大会〔個人戦〕 (4/16~20) 出場
- 東海学生バドミントン選手権大会〔団体戦〕 (4/2~7) 出場

### バレーボール部

- 春季東海1部リーグ (4/14~5/20) 7位

### ハンドボール部

- 東海学生ハンドボールリーグ戦 春季 (4/1~5/13) 5位

得点王04J大橋隆之 敢闘賞04B石塚大樹

- 東海学生ハンドボール選手権 (6/17~24)  
Aチーム優勝 Bチームベスト8

### モーターサイクルスポーツ部

- OLD DAY 走り屋同窓会 (4/29) 6位入賞
- NANKAI鈴鹿MINI-MOTO4時間耐久ロードレース (9/2) 61位/120エントリー

### 陸上競技部

- 第61回名岐駅伝 (2/3~4) 31位
- 土曜競技会 (6/2) 出場
- 第1回駅伝強化長距離記録会 (6/30) 出場
- 岐阜県選手権 (7/8) 4位 (04J幅光宏)

### レーシングカート部

- RAINBOW CUP SERIES, 3 (4/20~22)  
決勝5位 (04M古屋辰典)
- RAINBOW CUP SERIES, 2 (3/24~25)  
決勝9位 (04M古屋辰典)
- RAINBOW CUP SERIES, 1 (2/24~25)  
決勝5位 (04M古屋辰典)  
決勝11位 (B06村瀬亮太)
- APG CUP第2戦 (5/5~6)  
17位 (05M中嶋和人)
- 瑞浪シリーズ第3戦 (5/5~6)  
決勝10位 (04M古屋辰典)
- APG CUP第1戦 (3/17~18)  
5位 (05M中嶋和人)
- 全日本併備地方戦FS-125クラス (5/14~15) 決勝6位
- 瑞浪シリーズ第1戦 (2/17~18)  
決勝20位 (04M古屋辰典)
- RAINBOW CUP SERIES, 4 (6/2~3)  
決勝7位 (04M古屋辰典)  
決勝6位 (B06村瀬亮太)
- 全日本併備地方戦FS-125クラス 第2戦 (6/23~24) 決勝9位 (05M中嶋和人)
- 新人戦 (7/29) 決勝7位 (M07堀智洋)

### E・D・P・S部

- サンシャインクリエイション35 (4/22) 参加

### 音楽研究部

- もちの木野外ライブ (2/10) 参加
- デモコンライブ (4/11~12) 参加
- 若宮野外ライブ (9/1) 参加

### 吹奏楽団

- 学位記授与式 (3/22) 演奏
- 入学式 (4/2) 演奏
- 大学祭 (5/20~27) 演奏
- 大同特殊鋼主催くすのき子ども作品コンクール表彰式 (6/3) 演奏
- ハンドボール北京オリンピック男子アジア予選 応援団 (9/1~6) 応援

### アーチェリー同好会

- 東海学生アーチェリー王座出場校決定戦



大橋隆之君 (04J)

(4/28~29) 15位

- 東海学生アーチェリー選抜選手権大会 (5/13) 出場
- 東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 (9/23) 出場
- 東海学生アーチェリー個人選手権大会予選 (8/7~8) 出場

### 水泳同好会

- 梅村杯長距離水泳競技大会 (5/19) 出場
- 中部学生選手権水泳競技会 (6/30~7/1) 出場

### ダンス同好会

- 学年別戦 (2/4) 下位リーグ総合6位
- 中部日本学生競技ダンス選手権大会 ラテン戦 (5/13) 出場
- 中部日本学生競技ダンス選手権大会 モダン戦 (5/14) 出場
- 西日本ラテン戦 (6/3) 出場

### テーブルゲーム研究部

- 外部コンベンション (6/23) 参加

### 漫画研究部

- コミックマーケット (12/28~1/1) 参加
- COMIC1 (4/29~5/1) 参加
- コミックライブin名古屋 (1/28) 参加
- 万聖祭 (11/4~6) 参加
- EXPO2007 OSU NAGOYA (2/12) 参加
- COMICCOMMUNICATION11 (6/10) 参加

### ラグビー部

- リーグ戦直前強化合宿&顧問誕生会 (9/8~9) 大成功!

### ロボット研究部

- 第11回ROBO-ONE (3/23~26)  
本戦ベスト16 (MM06青木康宏 ツリモセンサ賞・オートデスク賞)
- ロボファイト5 (5/12) 出場
- 第14回かわさきロボット競技会 (8/25~26) 出場
- 第12回ROBO-ONE (9/15~16) 出場

### 軟式野球同好会

- 春季リーグ (3/22~5/5) 2勝3敗
- 春季下位リーグ (6/16~23)
- 秋季リーグ (8/27~10/8) 3勝7敗

### 広報研究会

- 大磯通商店街 秋大祭 (9/16) 参加

※成績結果報告書提出分のみ掲載



## 江南市立西部中学校 DIT見学会



二足歩行ロボットの実演

10月18日(木)、総合学習の一環として、江南市立西部中学校1年生25人がDITを訪問した。

始めにロボット工房で、西堀賢司教授(工学部ロボティクス学科)とロボット研究部員から、「リモコン花火(2006CVG文部科学大臣賞受賞作品)」「サッカーロボット(2005世界大会ベスト12)」「空中ブランコロボット(愛・地球博出展)」「二足歩行ロボット(2007ROBO-ONE全国大会ベスト16)」の説明を受け、さらに体験した。



リモコン花火の実演



サッカーロボットの説明



二足歩行ロボットの体験

次に、溝口正信教授(工学部ロボティクス学科)の「産業ロボットの説明と実演」。さまざまなシーンにおいて活躍しているロボットの説明を講義室で受けた後、ロボット実習室に移動して、実際に動く産業ロボットの実演を見学

した。生徒たちはロボットのスピードと正確さに面白さを感じ、引き込まれていたようだった。



産業ロボットの実演



講義

最後に情報教育センター・図書館を見学後、14階ラウンジで昼食。

ロボットに触れてもらう総合学習をDITで展開した。

## JAXA主催 リーダーズセミナー東海



11月3日(土)、4日(日)の両日、JAXA宇宙教育センター主催のリーダーズセミナー東海が、DIT交流室で開催された。

最終講演者は、澤岡昭学長が務め、「もうすぐ完成!国際宇宙ステーション」と題して講演した。

リーダーズセミナーの参加者は、JAXAよりリーダーズセミナー修了証が授与され、今後のイベントで活躍が期待されている。

## 名古屋市立柴田小学校 DITを訪問



11月1日(木)、柴田小学校2年生の児童が生活科授業「町探検」でDITを訪れた。始めに事務所でインタビュー。クラブの種類は? 昼食はどんなものを食べるの? 学生が遊ぶ場所は? などなど…事務所に座り込んでしまうほど教室 森川博光さんへのインタビューは盛り上がった。

次にDITの施設を見学。図書館・学生食堂・体育館などを回った。児童全員が図工好きということもあって、特にロボット工房では目を輝かせていた。

## 全日本ロボット相撲大会 東海地区大会



9月30日(日)、DIT石井記念体育館で全日本ロボット相撲東海地区大会が開催された。

この大会は、「ものづくり」の楽しさを知ってもらうことを目的としている。

開会式では、澤岡昭学長が「大同工業大学は、ロボットのメッカを目指す!」と宣言、会場を盛り上げた。

大会には、大同工業大学大同高等学校が出場、手に汗握る攻防戦を勝ち進み、見事入賞、全国大会へとコマを進めた。

この様子は、当日の「CBCテレビ」「中京テレビ」の夕方ニュース、10月1日(月)の「中日新聞」「朝日新聞」朝刊で紹介された。

大同工業大学・宏潤会大同病院・カゴメ(株)・(株)スズケン・ファイザー(株)

## 第11回 すくすくこども健康教室

10月27日(土)、DIT石井記念体育館で楽しみながら健康について学ぶ「すくすくこども健康教室」を開催した。「楽しく運動!おいしく栄養!」がテーマのこのイベントにおよそ80人の親子が参加。「こども運動」を担当した水野義雄教授(教養部保健体育教室)は5種類の運動を楽しく展開。アシスタントのDITハンドボール部員たちの活躍もあって、会場は笑顔であふれていた。





トコトン先生  
大活躍!

■ 浅井淳 准教授 (工学部ロボティクス学科)

名古屋市南生涯学習センター・DIT講座  
「パソコン次の一歩らくらくExcel入門」

昨年10月に開講された講座「ホームページの作り方」で、講師を務めた浅井准教授の丁

寧かつ親切な教え方が好評だった。また引き続きパソコン講座をシリーズ化して欲しいとの要望もあり、実現したのが今回のこの講座。25人定員に58人の希望者が集まった。

11月1日(木)から12月6日(木)にかけての全5回、DITマルチメディア教室で講座「パソコン次の一歩らくらくExcel入門」を開講。日常生活や仕事にも役立つ技能の習得を応援したい一心で、表計算やグラフ、データ集計などの学習プログラムを展開した。

■ 清水郁郎 准教授 (工学部建築学科)

## 知多市・DIT提携講座「癒しと老いの時空間」

11月3日(土)、中部公民館ふれあいプラザで「癒しと老いの時空間」と題し、清水准教授が講演した。

現代日本の超高齢化社会における「老い」と東南アジア大陸部の少数民族社会での「老い」の違いを社会文化的側面から分かりやすく説明した。東南アジア大陸部の少数民族社会では、文字の読めない人が多く記憶力の良い年を重ねた人が社会では偉く、家族においてはその人が中心的人物となる。日本とは大きく異なる点だ。

少人数の参加者ではあったが活発に質問が出され、有意義な講座となった。



■ 佐藤壮一郎 講師 (教養部保健体育教室)

## コーチとしてハンドボール日本代表を率いる



佐藤講師(右)

平成19年1月より日本代表のナショナルスタッフ・コーチに日本ハンドボール協会から就任要請を受けた佐藤講師。Ivica Rimanic

(イビツァ・リマニッチ)監督、Roland Nemes(ネメシュ・ローランド)コーチと共に愛知県・北海道・埼玉県での「強化合宿」、「クロアチア遠征(5/6~23)」、「チュニジア・スロベニア遠征(8/4~20)」に唯一の日本人ナショナルスタッフとして参加。選手と共に北京オリンピック出場を目指した。

そして迎えた「2008年北京オリンピック男子アジア予選 愛知・豊田大会」(9/1~6・スカイホール豊田)。結果は2勝2敗で3位に終わり、残念ながら北京への夢は断たれたが、会場をブルー一色に染めたサポーターからは惜しめない拍手が送られていた。

■ 松浦章裕 教授

(工学部機械工学科先端機械工学専攻)

名古屋市・DIT連携講座  
「マイクロバブルの生成とその利用」

10月25日(木)、名古屋市女性会館で開講された公開講座「マイクロバブルの生成とその利用」に50人を超える受講生が集まった。講師は泡のメカニズムについて研究している松浦教授が務めた。

講座では環境浄化、医療や美容等の分野で注目を浴びているマイクロバブルの性質から一般家庭で気軽に作る方法まで、映像を交えながらわかりやすく解説した。

講座開始前は最前列の席から座り、終了後は質問に並んで待っている受講生たちの姿が印象的だった。

■ 横山弥生 准教授

(情報学部情報学科コンピュータサイエンス専攻)

東海ラジオ  
「トップインタビュー」に出演

横山准教授(右)

横山准教授が、東海ラジオに出演した。番組名は「トップインタビュー」。オンエアは11月17日(土)の昼。この番組は東海地方のさまざまな分野で活躍している方々をスタジオに招き、インタビューするもの。横山准教授はこの番組で15分間、たっぷりとDITの魅力や2008年4月新設の情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の話、研究活動のことなどをわかりやすく話した。アナウンサーの深谷里奈さんとのコンビネーションも抜群で、楽しいトークを聞くことができた。

# 元氣印の卒業生 ⑬

北海道 釧路公立大学 経済学部 准教授 皆月 昭則  
大同工業大学大学院 工学研究科修士課程修了

## 本学OB皆月昭則さんに 澤岡昭学長がインタビュー。

**学長** DIT生活、振り返ってみるとどうですか？

**皆月さん** 早かったですね、工学に関することを学んだだけでなく、考え方の視野が広がりました。研究指導教員は熱工学分野の専門の先生でした。研究テーマを考えた時、まだ、未踏分野としておかれていた「人工知能」という分野に私は興味を持っていました。熱工学という分野とは異なる人工知能を活用した研究テーマに挑戦したいと指導教員に相談したところ、論文になるのかどうかかわからないけれども「トライしてみてもいいか」と言ってくれ、いただき、「人工知能～ファジ理論」まで勉強することになりました。

当時は、人工知能の概論に関する授業も開講されていませんし、先行研究も少なく、あきらめようと思った時もありました。しかし、そのように悩んでいた頃、地下鉄の自動運転においてファジ制御を用いたというニュースを聞いて、その列車の自動運転を示すシミュレーションシステムをPrologという人工知能開発言語で作りました。

その頃からでしょうか、自分へ言い聞かせている言葉があります、「困難な課題に遭遇した時にこそ、自分を成長させる最大のチャンス」。どうしても列車のファジ制御を実現しなかったため、ほぼ毎日大同町駅から電車の1両目に乗って運転手（人間）がどのタイミングでブレーキをかけているか等を見ながら何



往復も乗車していました。周囲の友人達はそこまでしなくてもと言っていました。ある時、その友人から最近「指導教員の先生が電車の1両目に乗り込んで運転台を覗き込んでいるぞ」と聞きました。聞けば指導教員の先生自身も人工知能の理論研究を始めたとのことでした。そのおかげで先生とたくさん議論することができました。

熱工学の指導教員の先生は大学院の1年目で退職され引き続き生産管理分野の先生が指導教員となり、人工知能やファジ理論を生産や経営的な意思決定を支援するシステムを開発して修士論文としてまとめました。DITで学んだひとつに「困難な課題に対して、決してあきらめない前向きな姿勢」を挙げます。研究での人工知能やファジ制御のアルゴリズム開発の当初はエラーばかり。それでも前向きに粘り強く対処できたのはDIT伝統の実学を重んじる教育と教員の方々の学生へのエンカレッジ「がんばれ!!」のおかげだと思えます。

**学長** それから博士課程を志願したのはなぜですか？

**皆月さん** DITの大学院修了から数年間は高等学校に勤務していました。高等学校に勤務しているあいだに文部科学省（旧文部省）の指示でアメリカ・ニューヨーク州の学校に派遣される機会がありました。派遣では、現地の教員宅（ロングアイランド）にホームステイをしながら一緒に学校に通っていました。

アメリカ滞在中は、多くの行政・教育機関や民間企業を視察するなど先進的な取組みや技術にふれて、DITの研究結果をさらにステップアップさせたいという気持ちが大きくなっていくことに気づき、大学院博士後期課程の試験を受けることを決めました。

博士後期課程では、第5世代コンピュータの研究リーダーであった先生が指導教員でしたので、博士論文の作成段階から人工知能や意思決定の研究議論がスムーズにできました。博士後期課程では、社会科学系分野も学ぼうと、DITの修士課程の生産管理工学の知識



をもとに経済・経営学の分野についても徹底的に勉強しました。おかげで今、MOT（技術経営）の分野でも教育・研究ができるまでに11月には国際会議でMOT教育に関する提言をおこないました。

**学長** 博士論文のテーマは？

**皆月さん** 大きなテーマは「ナビゲーションの高度化（知能化）」。メインとなるのは、「現状のナビゲーションシステム（カーナビなど）が計算する最短経路はユーザに最適な経路で満足させるのか」という疑問から始まります。A地点からB地点に行くのに例えば気分転換がしたい、喫茶店に行きたい等といった個人の欲求や嗜好の程度をコンピュータに入力することによって、それらのユーザの意図を最適かつ満足する経路として導出するアルゴリズムの開発を目指しました。

開発したシステムのコアはDITの修士論文で用いた人工知能・ファジ理論そしてAHP（階層化意思決定法）というシステムメタ的なアプローチで、開発に関する課題解決はDITで時間をかけて開発したものが役にたちました。すなわち、DITの修士論文のベースがあったものが、博士後期課程の高度なシステムに継承されたことになります。

博士の学位をめざす場合、その前段階である修士論文の成果が重要になります。具体例では大同町駅から列車に乗っていたファジ理論の実証的研究のノウハウもナビゲーションの知能化に関連して活かされています。DITでの実践的研究の蓄積が博士論文における開発システムに入っているエッセンスの重要な要素であったことは間違いのないです。

今思えば、博士後期課程の厳しい研究に耐えることができたのもDIT精神のおかげ。博士の学位（Ph. D）を取得し学長賞をいただき、北海道釧路公立大学に奉職し現在に至っていますが、困難な課題に対する不屈のDIT精神は日々、北の大地でも持ち続けています。



澤岡学長(左)、皆月さん(右)

**学長** 釧路公立大学に決まったのはいつ頃ですか？

**皆月さん** 大学院大学3年次の9月に決まりました。指導教員の先生がいくつか紹介してくれたのですが、もう公募の時期になっていたのでも自分が気に入った大学にチャレンジしようと、釧路公立大学を一番はじめに志願して採用候補になりました。他にも採用候補になったという大学もありましたが、最終面接で帯広空港から列車で釧路を訪れた時に目に入った大自然の豊かさや、感じた人の暖かさから決めました。

また北海道は自然に恵まれている反面、さまざまな災害や課題が多いということを知り、新たな研究にチャレンジができそうというモチベーションの高まりを感じたことも理由のひとつです。例えば地震や津波、また国内唯一の海底炭鉱の存続も日本のエネルギー保証を考えると課題になります。

着任して何度も、海底400～700mまで視察しました。海底下には東京の山の手線の外周と同規模の坑道がありまして炭鉱専用開発された列車や特殊な機械が稼働しています。そういった大規模なプラントや機械をどのように維持していったらいいのか、技術の伝承は日本のエネルギー保証と直面する課題です。

日本のこれまでの発展経緯は、石炭の恩恵も大きく関わっていると思いますし、現在、火力発電所の石炭の需要は増加の一途です。炭鉱という大規模なシステムを閉山ということは簡単ですが一度OFFにしてしまうと、将来のエネルギー保障において炭鉱というシステムが必要になった時、「採炭してください」と言っても大規模システムの再起動は困難です。この課題は、技術と経済という両面からの政策提言が必要でありその役割を期待されています。

**学長** DIT卒業から経済学部准教授へ。この道すじはまったく独自のものだと思いますか？ それとも関係性があると思いますか？

**皆月さん** 私は技術と経済は双対性があり、広義に理解しますと社会に関係性があると思います。現職において私は社会科学系学生に対して「社会・生活から技術を見る視点」を養うために授業で模索中です。例えば学生は、イノベーションや事業化という言葉

を使用しますが、その具体例を十分に説明することはなかなか容易ではありませんし、実践はできません。やはり、事業化の裾野には「ものづくり」という技術があり、単にマネージするだけでは社会・経済は成立しないのです。ものづくりは書いたものを読むだけでは理解できませんし実践が必要です。やはり体験し肌で感じないとだめ。ですから今、実現させたいのはDITのような実学重視の環境があれば釧路公立大学の学生の学問的理解は深まると思います。

**学長** 新聞で皆月さんの災害時の避難経路や情報伝達の研究を見ました。今、災害や温暖化等の問題にさまざまな省庁が取り組んでいます。それらを取りまとめた推進する委員会が文部科学省に発足しました。その委員長に私が任命されて今年で3年目になります。

その委員会では地震や津波をはじめ異常気象等の地球規模の問題が含まれています。最近、委員長として恥ずかしくないよう地震や火山、地球温暖化の勉強を沢山しました。カムチャッカ半島、北方領土から釧路にかけて、地震を中心とした災害は数年に1回起きる可能性が高いため、皆月さんはますますその分野のキーパーソンとなるでしょう。ぜひ地域の頼りになる人物となってほしい。それには「あの人の言うことだから聞か

きゃね」と言われる、そういう信頼感を持たれる存在になってください。期待しています。

**皆月さん** 一生懸命がんばります。困難な課題にこそ不屈のDIT精神でトライするスタイルを忘れることなく実践し、北海道地域をはじめ社会に貢献したいと考えております。

**学長** 最後に後輩達へメッセージをお願いします。

**皆月さん** DITのポリシーは基礎・基本に忠実で、DITの環境はそれらを再現できる恵まれた環境があります。新しいことに挑戦するには、やはり基礎・基本が大切です。何かトラブルが起こった時、昨今のシステム等が複雑になっていますが、やはり原点に戻らなければいけない。技術や社会の課題でも基礎・基本に戻らなければ、どう対処していいのかわからなくなるという実情を耳にすることが多い。

私がDITで学んだことのひとつに困難な課題に立ち向かう姿勢がある。トライ&エラーを繰り返して粘り強くやっていく姿勢です。また、何でもいから大学生活でやり始めたことは自分が納得するまできっちりチャレンジし継続してほしい。その後、DITの経験をバネにして進むべき方向を変えてもいいでしょう。また、必ずどこかの場面でDITにおける研究論文作成などで指導教員の先生と議論し試行錯誤し悩み解決した経験は役に立つと思います。



◀趣味はドライブです

## PROFILE

釧路公立大学 経済学部では経済・経営学科においてオペレーションズリサーチ(管理工学)のほか、プログラミング演習によるシミュレーション、産業技術論でイノベーション創出や設計における創造性開発についての講義を担当。

また、研究分野では、文部科学省科学研究費の「社会・安全システム工学」分野のテーマに採択され、地震・津波の避難計画や経済的視点からのリスクマネジメントを研究している。その他、京都における伝統工芸の技術の伝承と現代イノベーションの創出でIEEEのサイバネティクス分野で発表している。

2006年度情報教育研究集会における投稿論文と講演で「最優秀賞」に選ばれた。テーマは「社会科学系におけるプログラミング授業展開の一考察」。情報教育研究集会は文部科学省後援で、国公私立大学の教員が多数参加している。今回は投稿論文数245件、そのナンバーワンとなった。

11月9日(金)大阪大学コンベンションセンターで開催された、2007年度情報教育研究集会の全体会で発表と表彰式がとりおこなわれた。

# 研究室 NEWS

## 西堀賢司研究室(工学部ロボティクス学科) あいちITS交流フォーラム2007 特別企画展 ITSワールドinあいちでブース出展&ステージ発表

11月22日(木)~25日(日)、ポートメッセなごやで2007名古屋モーターショー共同企画 特別企画展ITSワールドinあいちが開催された。そのイベントのロボット企画展に西堀研究



室が出展した。また会場中央に特設されたステージでは、研究員の活動紹介とロボットバトルを披露し、多くの来場者を楽しませた。



## 大東憲二研究室&堀内将人研究室 (工学部都市環境デザイン学科) 環境デーなごや 「リサイクルフラワーボトル工房 /名古屋の地盤環境と水環境」 ブース出展



9月23日(日)、栄の久屋大通公園で「環境デーなごや2007」が開催された。

このイベントは、環境問題に取り組む市民や事業者、行政が一体となって成果などをPRするもので、今年で8回目。DITは2ブースを出展した。

「リサイクルフラワーボトル工房」は、ペットボトルを再利用して、見た目にもきれいな植木鉢を作るというもの。用意していた花「120株」を選ぶ人ばかりで大盛況。

また、「名古屋の地盤環境と水環境」では、「清流の再生を夢の技術で！」を合言葉に実施された「堀川エコロボットコンテスト2007」に出展した機材の実演や、地盤の液状化を再現する装置の展示・実演等で来場者に環境問題を訴えた。

DITは他にも、環境デーなごや2007「クリーンキャンペーン」企画等、環境問題に関わる様々なイベントに積極的に参加している。

## 西堀研究室 近藤弘憲さん(大学院修士課程1年) ロボットビジネスフォーラムで講演



9月12日(水)、ミッドランドスクエアで「ロボットビジネスフォーラム」が開催された。

このフォーラムでは、展示会・個別面談会、そしてロボットビジネスに係る5つのセミナーが実施された。セミナー4のキャンパスベンチャーグランプリ受賞者による事例発表で、昨年度の全国大会グランプリ受賞者である近藤さんが講演依頼を受け、「リモコン花火が実現する生活空間」と題して発表した。

## 西堀研究室 空中ブランコロボットが トヨタ自動車(株)で特別展示



10月5日(金)、トヨタ自動車(株)事務本館ホールで、DITオリジナル「空中ブランコロボット(4号機)」がトヨタ自動車創立70周年記念の「創意くふう展示会」で特別展示(実演)された。

このイベントに出展することになったのは、去る8月3日(金)に産業技術記念館で開催された「高校生のためのハイテクイベント」に、愛知万博でも大人気だった2号機を出展したことがきっかけ。

電気を使わずに動くからくりの面白さがトヨタ自動車関係者の目に留まった。なんと上り勾配のブランコ列を電氣的動力無しでロボットが渡っていく。今までロボットミュージアムで展示されていた、人気の作品だ。

11月22日(木)~25日(日)にポートメッセなごやで開催される名古屋モーターショーの「ITS特別企画展」にも出展された。

サーカスロボットは様々なイベントに引っ張りだこだ！

## 佐藤義久研究室 (工学部電気電子工学科) 日刊工業新聞が研究室を取材

10月10日(水)、日刊工業新聞の紙面に「大同工大が発電技術」と大きく掲載された。形状記憶合金ワイヤと車輪を用いて発電する技術を開発した佐藤教授の研究だ。形状記憶合金ワイヤを上下2つの車輪にかけてつなぎ、下部の車輪にかかっている形状記憶合金ワイヤを温めると反作用によって上下の車輪が回り出す。その回転運動を使って発電機を動かすメカニズムを紹介した。工場や火力発電所などの廃熱を利用して発電する技術として実用化を目指している。



## 堀美知郎研究室 (工学部機械工学科先端機械工学専攻) 環境にやさしい「クルマ」の 技術産業展にブース出展

9月7日(金)～9日(日)の3日間、ポートメッセなごやで、「自動車」をとりまく環境諸問題を解決すべく、自動車に関する最新の環境対策技術やCO<sub>2</sub>削減技術などを紹介する、環境にやさしい「クルマ」の技術産業展が開催された。そのイベントに堀研究室がブースを出展。最前線における燃料電池の研究を紹介した。



## 堀研究室&西堀研究室

## 中経連テクノフェア2007にブース展示



中部地方の企業や大学が開発した最新技術を紹介するイベントが、10月11日(木)名古屋栄ビルディングで開かれた。

会場には未来の暮らしを支える、およそ80シーズの新製品・新技術が展示された。DITは堀研究室がエネルギー部門で「燃料電池」を、また西堀研究室が新製造技術分野で「LED、PSDを用いたミラーの二次元傾斜

計測装置」と情報通信分野で「リモコン花火」を展示した。

イベント当日の夕方、NHK総合テレビ「ほっとイブニング」では、会場の様子を放送、リモコン花火(CVG文部科学大臣賞受賞)の開発者 近藤弘憲さんが紹介された。放送後、DITにはリモコン花火への問い合わせが数件あった。

また、両研究室は、10月12日(金)・13日(土)に開かれた「岐阜テクノフェア2007」にもブースを展示している。

## 小林正典研究室 (工学部機械工学科先端機械工学専攻) 宮田昌典君(4年) 第34回国際福祉機器展で 実験データを公開



10月3日(水)～5日(金)の3日間、東京・国際展示場で開催された国際福祉機器展に小林教授と福祉機器メーカーとで共同開発した器具「スバズフィット」が展示された。これは、下肢機能の衰えた人や障害をもつ人の転倒・転落事故予防・リハビリテーション時等に活用されるもの。この介護福祉用具の使用実験を卒業研究の一環として取り組んでいるのが宮田君だ。彼の実験データ結果が試作品とともに展示・公開された。

## 光田恵研究室(工学部建築学科)

棚村壽三さん(大学院修士課程2年)板倉朋世さん(大学院博士後期課程3年)

## 国際会議「Indoor Air Quality, Ventilation & Energy Conservation in Buildings (IAQVEC2007)」で論文発表



10月28日(日)～31日(水)、仙台国際センターで開催された国際会議「IAQVEC2007」において棚村さんが論文「EVALUATION ON THE DISTRIBUTION CHARACTERISTICS OF COOKING ODORS AND DEODORIZATION EFFICIENCY OF THE NEW AIR CLEANING SYSTEM (新開発調理機用脱臭システムの性能評価に関する研究)」を発表した。電機機器メーカーと電力会社が共同製作した脱臭システムの性能評価について、3年間の研究成果を英語でプレゼンテーションし、またブース展示を行った。その際にブースを訪れたデンマークの大学教員から来年夏、デンマークで開催される国際会議の情報を聞いた。室内

空気の研究が盛んで、その分野の権威も多い北欧に興味があった彼は「挑戦したい！」と強く思った。すぐに光田准教授に相談。全面的に協力してくれるとのこと。この積極的な行動には自分でも驚いていた。考えてみると仙台の国際会議に参加したきっかけは光田准教授から言われて…しかし次は違う、自分からだ。

棚村さんにとって国際会議初挑戦は、将来の可能性を切り開く成果をもたらしたようだ。

また板倉さんも同会議で論文「SURVEY OF CHARACTERISTICS OF THE ODER IN MEDICAL FACILITIES」を発表した。



萩原伸幸研究室(工学部建築学科)

羽根健介君(4年)・松本雄大君(4年)・古田寛生さん(大学院修士課程2年)

2度目の挑戦「形態創生コンテスト2007」



羽根君(左)、松本君(中)、古田さん(右)

萩原研究室は構造形態創生のアルゴリズムや考え方を用いた「新しいかたち」や「独創的なアイデア」を評価するコンテスト「形態創生コンテスト」に2度目の挑戦で見事、優秀作品に輝いた。

古田さん(当時院1年)と増田君(当時4年)で挑んだ昨年は、最終審査の4作品まで残ったものの、準備・知識・経験不足を痛感させられた結果に終わったが、今年はその悔しさを晴らしてみせた。

再挑戦のきっかけは、卒業研究テーマのひ



プレゼンテーションの様

とつとして「形態創生」を選んだ羽根君と松本君を古田さんがコンテストに誘ったのが始まりで、それは彼らふたりの苦悩への始まりでもあった。アイデアも何もない、まったく新しく「0」からのスタートだった。まずアイデアが閃くまでに2ヶ月、そしてそれを提出用ポスターに仕上げるまでにまた2ヶ月かかってしまった。その結果、構造解析していない状態で、9月14日(金)の書類審査に間に合わせて提出した。当然評価されないと思っていたが、最終プレゼンテーション審査の5作品に残っ



た。しかもアイデアが素晴らしいとの高い評価も得ていた。ここからまた1ヶ月半、苦悩の日々が続いた。とにかく一生懸命、構造解析しデータを集めた。また昨年の反省から、プレゼンテーションへの準備も万全に行い臨んだ10月26日(金)。東京大学で最終審査が行われた。

審査員の評価は「若く勢いがあり柔軟で奇想天外なアイデアだ。素晴らしい」「DITはおもしろいものを毎年考えてくる」「2年越しの念願がかなったね」など多くの賞賛を得た。

「20以上持っていったボツアイデアの作品のひとつが萩原准教授のアドバイスで優秀作品にまでなり驚いた。今はとりあえずホッとしている」と言うのは、羽根君と松本君。最後に古田さんが「今回の苦労は必ず就職後に生きるはず。羽根と松本は本当によくやった！」と初めてふたりを褒めていた。

新任  
教職員紹介



山田幸司准教授

工学部建築学科

衣食住といわれるように、建築やインテリアはわれわれが生きていくうえで必要不可欠なものです。「まち」を見わたしてみると、そこには建築やインテリアが埋め尽くしているはず。つまり「まち」というのは建築やインテリアそのものの結晶体なのです。建築やインテリアに囲まれてわれわれは生活して、時に笑い、時に泣き、生きているのです。そのわれわれの生活に欠かせない建築やインテリアがおかしなものだと、どこかわれわれの生活もギクシャクしたものになってしまうと同時に、「まち」の形さえもおかしなものになってしまいます。建築やインテリアを学ぶというのは、われわれが豊かに幸せに生きていくことを追求していくことなのです。

私は「グッドデザイン賞」、「日本建築家協会優秀建築選」等を受賞した「笹田学園田町校舎」に代表されるハイテクデザインと呼ばれる、まるでロボットや機械のような建築、インテリアをつくっています。これは私が学生時代にあこがれていたデザイン様式です。学生のころの若い感性というのはとても重要なのです。大同工業大学の学生たちには、おおいに若い感性を磨いて、社会に貢献する重要な人材になっていくことを期待したいです。



三原昌平教授

情報学部情報デザイン学科  
プロダクトデザイン専攻  
(2008年4月新設)

幼少の頃から自動車の絵ばかり描いていた私が工業デザイナーを志したのは、1962年(中学3年生)の時に東京モーターショーの会場でした。そこにはホンダが初めて開発した四輪車「S360」が眩いばかりに展示されていました。経済的な妥協の産物でしかなかった「軽」がもの見事に宝石のような存在に生まれ変わっていたのです。

しかし、それから僅か数年にして日本の工業デザインは単なる産業の具と化してしまい、暗黒の時代に入ります。供給する側の理屈や価値観に片寄った発想で作られたモノに「ときめき」が感じられる訳がありません。

ところが、21世紀に入って、再びプロダクトデザインは輝きを取り戻して来ました。

現在は、過去のカウンターカルチャー程度の範囲に留まっていますが、この勢いを増し、それを加勢するのが大同工大のプロダクトデザイン教育だと思います。関係者の皆様のご理解とご協力をお願いします。



井藤隆志准教授

情報学部情報デザイン学科  
プロダクトデザイン専攻  
(2008年4月新設)

テクノロジーの発展や社会状況、地球環境の変化などによって、プロダクトデザインもまた従来の枠組みの中で邁進することは限界を迎えております。かつて正であった事柄も今では悪であることも珍しくなく、ヒューマニズムという内からの視点に加え、地球外から、また未来という外からの視点が強求められています。

デザインが応用芸術という言葉で語られることがあります。実社会に対して明確で具体的な理知を提示することがデザインという領域の使命であると言えます。学生とは単なる教える側、教わる側という関係ではなく、一つ一つの個として向かいあって行きたいと望んでいます。また一方で彼らに背中を見せていくような実社会でのフィールドワークに取り組んで行きたいと考えております。

デザインも教育も生きているものでありたいと思います。不易と流行の狭間で次の世代を共に作り上げていきたいものです。



## 授業開発センター

### 授業開発助成報告会／授業開発成果推進助成報告会



9月4日(火)に授業開発助成報告会と授業開発成果推進助成報告会がA棟14階交流室で行なわれました。10時から始まり、途中昼休みをとり16時に終了しました。

この助成制度についてまず説明しましょう。授業開発センターが発足したのは2001年4月ですが、同時に授業公開／授業研究会がスタートしました(授業公開・授業研究会については、大同キャンパスNo61(2007.7)に紹介しましたので、詳細についてはそちらをご覧ください)。その一方で授業の開発・改善のためには財政的支援もする必要があります、ということで学園・大学の理解と協力をいただくことができ、2003年4月から授業開発助成制度が始まりました。この制度の趣旨は授業研究会で議論に

なった全学的に共通する課題に取り組む授業開発を促進することです。2004年からは授業開発成果推進助成制度が追加されました。こちらは、授業開発助成制度によって成果があった授業開発を全学的に展開するという狙いです。

9月に行われた報告会では2006年度に採択・実施された助成の取組みが報告・議論されました。午前が授業開発成果推進助成報告会、午後が授業開発助成報告会でした。午前は授業補助員を使つての取組みが11件、教材開発3件が報告されました。午後は教材開発5件、実験科目で使う電子テキストの開発、学習教育目標到達度の総合評価のシステム開発、学生実験テーマの開発、エンジニアリングデザイン能力養成のための教育手法の開発、授業で使う学術用語・記号・単位についての手引き作成の実施結果が紹介されました。授業補助員、教材開発などの定番の取組みに加えて、今回はユニークな試みもあり、授業開発助成制度による授業改善の取組みの更なる発展が期待できると思いました。

### 泰日工業大学(タイ・バンコク)との学術交流提携

平成19年6月、泰日工業大学が開学し、8月2日(休)に開学記念式典が行われた。

今回、泰日工業大学から、学生や教員の交換をはじめとする学術交流協定をDITと結びたいと申し入れがあった。タイはシンガポール、マレーシアと並びこれからの経済発展が期待されており、日本企業も多く生産拠点を構えている。泰日工業大学は「学問を発展させ、産業の振興に寄与し、経済・社会に貢献する」を理念とし、エリート養成でなく産業の基盤を支える人材育成を目標としており、DITの人材養成目標と類似している。泰日工業大学との学術交流は、発展する南アジア地域にもDITが交流拠点を持つことになり意義あることと考え、学術交流協定を締結することが決まった。

泰日工業大学は、長年日本とタイの交流を支えてきた「泰日経済技術振興協会」が資金を投じてできた大学で、昭和30年代後半から40年代にかけてタイから日本に留学し、ものづくり技術が日本の経済発展の原動力であることを肌で感じた人たちの熱き



澤岡学長(左)とクリサダ学長(右)(調印式より)

思いの結晶として開学に至った大学である。

大学設立準備段階の平成17年4月に、泰日工業大学のスポン理事長とクリサダ学長が(株)タイ経済協力協会の勧めで大学設立の参考にするためDITを訪問された。DITの教育システムや実験実習室に大きな関心を寄せられ、支援委員としての要請があり井上茂樹副学長がこれを務めてきた関係で、今回の開学記念式典に井上副学長が招かれ参列した。

10月30日(火)、クリサダ学長が来日。DITの施設を見学後、理事長室で学術交流提携調印式を行った。

### 認証評価における 実地調査が実施されました

本年度に(財)日本高等教育評価機構で受審している認証評価における実地調査が、平成19年11月6日(火)から7日(水)にかけて実施されました。自己評価報告書や資料等の書面調査に基づき、教育研究、組織運営及び施設設備等の各調査が行われ、全学的な協力体制の下、無事終了することができました。評価結果は、平成20年3月に本学への通知と文部科学大臣への報告がなされ、インターネットを通じて広く社会に公表される予定です。



### DIT スケジュール



#### 12月

- 22(土) 集中講義・補講日
- 23(日) 天皇誕生日
- 24(月) 授業日(振替休日)
- 25(火) クラブ推薦(Ⅱ期)、特別奨学生・M方式入試補講日(～12/27)
- 28(金) 冬季休業開始(～1/5)

#### 1月

- 1(火) 元日
- 5(土) 冬季休業終了
- 8(火) 成績報告期間(～2/8)  
成績単位票(OCR)配付
- 9(水) 第10回就職ガイダンス(～1/15)
- 11(金) クラブ活動報告会
- 12(土) 集中講義・補講日
- 14(月) 成人の日
- 16(水) 補講日(～1/17)
- 26(土) 前期A方式 集中講義・補講日
- 27(日) 前期B方式
- 28(月) 定期試験(～2/1)

#### 2月

- 2(土) 定期試験予備日
- 4(月) 追・特追試験(～2/6)特別集中補講(～2/8)  
第11回就職ガイダンス(～2/5)
- 9(土) 中期・外国人留学生・委託学生・再入学(Ⅱ期)試験
- 11(月) 建国記念の日
- 13(水) 卒業研究発表(～2/15、18)
- 25(月) 試験結果通知書配付(～2/26)  
異議申請受付(～2/26)学修指導期間(～3/19)
- 26(火) AO入試(Ⅱ期)(2/28迄)

#### 3月

- 4(火) 成績確定日
- 10(月) 大学院(博士)入試
- 11(火) 大学院(修士)入試
- 20(木) 春分の日
- 21(金) 学位記授与式 卒業パーティー
- 22(土) 春季休業開始
- 24(月) ガイダンス・履修登録期間(～3/28)
- 25(火) 健康診断(～3/28)

# 事口壽男先生を偲ぶ



工学部 都市環境デザイン学科 教授

**事口 壽男** (享年65歳)

着任 1978年4月1日  
逝去 2007年11月23日

事口壽男先生(都市環境デザイン学科教授)は、11月23日早朝、出張先のホテルで逝去されました。享年65歳でした。出張の2日前、研究室前の廊下での会話が最後となりました。あまりの突然の死に、ただ言葉を失うしかなく、この悲しみから逃れるには時間を借りるより手がありません。

先生は1969年3月、大阪市立大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻を修了され、直ちに大阪市立大学工学部助手として勤務、講師を経て、1978年4月、本学建設工学科助教授として着任、1988年教授になられました。本学での在職期間は29年7ヶ月の永きに亘ります。この間、先生が本学のためにご尽力された業績には、以下に記すように、多

大なものがあります。

- 1978年10月～1980年10月 情報処理センター次長
- 1980年10月～1984年10月 教務部次長
- 1986年10月～1993年6月 国際交流委員長
- 1990年10月～1992年10月 建設工学科主任
- 1997年10月～1998年3月 建設工学専攻主任
- 1997年10月～2003年3月 大学評価委員会委員長
- 1999年4月～2002年3月 副学長
- 1999年10月～2001年3月 教授団資質開発委員会委員長

この中で、特筆すべきものとして、本学における国際交流に関する業績があります。先生は1981年9月から1年間、米国オレゴン州立大学(OSU)客員助教授として留学され、その後の国際交流の活動目覚しく、1984年OSUとの姉妹提携調印の礎を築いたのであります。先生が国際交流委員長の期間には、ドイツのアーヘン工科大学を初めとして4校との姉妹校提携がなされました。また、1987年から3年間、文部省国際科学研究助成の支援により、OSUから本学に3人の客員教授が長期滞在され、本学からも3人の先生がOSUに留学しており、1990年には土木学会協賛による国際シンポジウムが名古屋で開催されました。この他、夏季米国短期留学の団長として学生を引率すること、5回に亘ります。

また、先生は本学科の創設期以来、土木工学の構造工学分野、特に橋梁工学における教育研究に尽力され、多くの研究成果を挙げるとともに、優秀な卒業生を多数輩出してこられました。なかでも、中国からの留学生吉伯海さん



教職員クラブ テニス部

(現在中国の河海大学で副教授として活躍されています)の身元を引き受けられ、研究の指導に当たられました。よく二人で一緒に、先生の奥さんの手作り弁当を食べられていた姿が思い起こされます。

私もまた、先生から多くの指導を受けた一人であります。学位論文のための研究が滞っていた時期、公私に亘り勇気付け、分野が異なる私の論文草稿にも目を通していただきました。そして、夜になると、「ちょっと行くか」の声がかかり、柴田の馴染みの店で「無法松の一生」を歌ったのであります。酒を飲むことばかりではありません、先生はスポーツ万能で、教職員のテニス部の部長を長年勤められ、ゴルフに関しても学内屈指の腕前でありました。最後に、4年前の春、先生縁の店で句会を開くことになり、先生が吟じられた句を披露して、追悼の結びとさせていただきます。 合掌

新婚日夜桜通りなつかしむ  
壽男

工学部 都市環境デザイン学科 教授 舟渡悦夫

人事(H19.11.23付)

【大学】<教育職員>

事口壽男(工学部都市環境デザイン学科教授)  
名誉教授称号記授与



アメリカ短期留学

## 新刊書出版

岩木呂卓巳講師

(情報学部情報学科メディアデザイン専攻)



『野山の歳時記』

週間売り上げランキング  
岩波ベストテン(10/1~7)  
単行本・理科系 第1位



発行所:株式会社 岩波書店  
発行日:2007年9月26日  
定 価:1,995円(税込)

野山を散策するときに持ってゆきたい1冊。

四季の変化の中で出会う身近な草花や虫たちの生態を、映像作家としてマレーシアや中南米などのフィールドで培ってきた経験や知識を元に、自然への愛情たっぷり描いた写真エッセイ集。

中日新聞紙上で5年間連載を続けている「フォト歳時記」を大幅に加筆修正して、この本を編んだ。

## 編集後記



P06でクラブ活動成績結果を紹介したが、我がラグビー部も「2007 TOKAI STUDENT RUGBY LEAGUE (9/16~11/18)」に参戦した。初戦、試合終了まで残り1分のラストプレー、2年生の学生が倒れた。

タックルした際、相手選手の膝が額に入り、頭蓋骨陥没骨折の大怪我を負った。彼は中学・高校とラグビー未経験であったが、ラグーマンの兄の影響で入部。一生懸命練習に取り組んでいた。足が速い彼には、トライゲッターとなるウイングのポジションを任せた。しかし、1年時のLEAGUEではノトライに終わった。彼はいつも私に「トライしたいです!」と言い、休み時間、サインプレーを書いたメモを持ってきていた。そして待ちに待った2年目のLEAGUE初戦のこと。ショックだった。2週間後、髪の毛を剃り、頭を開き、頭蓋形成術を受けた。手術は成功したが、精神面も心配だった。あれだけ好きだったラグビーをやめてしまうのではないかと…。手術が終わった翌日、私にメールが届いた。彼からだ。「またラグビーしましょう! ☆」。またひとり、生涯忘れることのない学生が増えました。